

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第13回

北海道根室市消防団

今回は、北海道の根室市をお訪ねしました。
こちらの消防団は、おそらく日本で最も東にある消防団だと思います。どんな活動をされているか気になりますね。

また、昨年12月には高潮災害で甚大な被害を受けられたと聞いています。

そのときの被害状況、消防団の活躍、防災対策などなどをお尋ねしたいと思います。

では、根室市消防団の坂江國雄団長、金濱憲副団長、櫻田一二三副団長、藤野みゆき部長、根室市消防本部の新山伊都夫総務課長の皆さんからお話を伺いましょう。

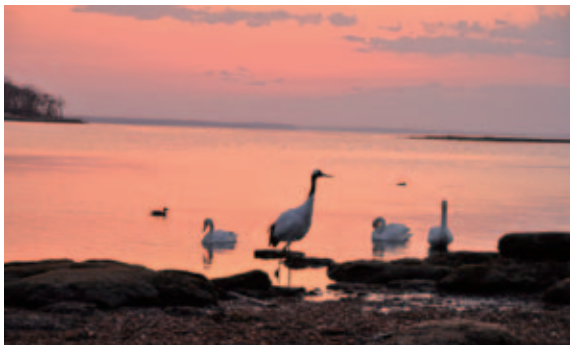


左から、藤野部長、坂江団長、ダニエル・カール、金濱副団長、櫻田副団長
(根室市消防本部で撮影)

根室市と消防団の概要等について

ダニエル 本日はよろしくお願ひします。まず、根室市の概要について簡単に教えてください。

藤野部長 根室市は日本列島本土の最東端に位置しています。北はオホーツク海、南は太平洋に面しており、豊かな水産資源を背景に古くから北方漁業の基地として発展してきた水産都市で、「北方領土返還要求運動原点の地」です。最東端の岬「納沙布岬」は貝殻島や水晶島など北方領土を間近に見ることができる一番早く朝日と出会える場所です。また、ラムサール条約登録湿地の風蓮湖（ふうれんこ）・春国岱（しゅんくにたい）は、四季を通じてさまざまな自然体験ができ、バードウォッチングの聖地とも呼ばれ、雄大な自然に恵まれた地域です。特産の「花咲ガニ」や日本一の水揚げを誇る「さんま」をはじめとする海の幸は四季を通じて豊富で、旬の食材をその場で食べられるイベントは多くの観光客や市民で賑わっております。



風蓮湖の情景

ダニエル 人口はどれくらいですか。

新山課長 平成27年4月30日現在、27,816人です。

ダニエル 消防団の概要を教えてください。

金濱副団長 根室市消防団は明治13年に消防

組として創設されたのが始まりで、条例施行に伴い、現在の根室市消防団に改称されました。平成27年5月1日現在、定員335名で、実員が332名（うち、女性消防団員は10名）で、1団本部・9分団で構成され、装備は消防ポンプ自動車6台、小型動力ポンプは15台を保有しております。主な活動として、年間の訓練計画に基づき各種訓練を実施し、春と秋の火災予防運動期間における一人暮らしの高齢者世帯の立入検査や予防広報活動、歳末警戒巡視等、出初式等、防火意識の高揚を図り、市民の生命・財産を守っております。職業構成としては、漁業が約6割を占め、多いですね。



消防団員が訓練中の様子

平成26年12月の高潮災害時の状況等

ダニエル 昨年12月に高潮災害が発生したそうですが、そのときの状況について教えてください。

金濱副団長 平成26年12月17日に爆弾低気圧の影響で、根室市は暴風雪や高潮などに見舞われ、甚大な被害がもたらされました。住宅・商店・水産加工場など浸水被害があったほか、漁船の損傷や牛舎の全壊など水産や農業にも影響を及ぼし、被害額は20億円を超えました。消防団は、市と協力して、暴風によるトタンの剥離や家屋の損壊などの風害出動、高潮による避難勧告に伴う地域住民の避難誘導として活動し

ました。

ダニエル 災害発生が12月ということで、積雪もあったのではないですか。

金濱副団長 いえ、雪はまだそんなにはなかったですね。ただ本当に風が強いというか。

ダニエル 北海道は、風が強いというイメージがあるのですが。

金濱副団長 風速は39.9mという、観測史上歴代2位の風だったそうです。(私の経験では)こんなに強い風は初めてでした

ダニエル 潮位はどれくらい上昇したのですか。

新山課長 高潮の被害が大きかったのは町中で、被災者の避難誘導や救助しているときには、職員の首の高さくらいまできました。

ダニエル 1m 50cmから2mくらい？

新山課長 1m 50cm以上はありましたね。

ダニエル すごく危ないですね。私の父も高潮の被害にあったことがあるんですよ。アメリカのメリーランド州のワシントンDCにわりと近い辺りなのですが、湾でできていて、ちょうど満潮の時に台風並みの低気圧が重なって、潮位が普段より3mくらい高くなってしまって。真夜中に目が覚めたら床が濡れていたんで、飛び起きて少し高いところにある部屋へ移ったんですよ。そうしたら2時間後にそこも床が濡れてきて。とてもゆっくりですが、徐々に海水が上がってきて。高潮は危ないものなんですよ。

櫻田副団長 そうなんですよ。

ダニエル その時、消防団の皆さんは出動して、いろいろ助けに行ったわけですね。

新山課長 町の中での高潮被害については職員が対応したのですが、郊外地区については職員の手が回らないので、消防団員の皆さんに

住民の避難誘導などをお願いしました。

ダニエル 高潮は、根室市辺りではよくあることなのですか。

坂江団長 いえ、今だかつてない大きな災害でした。

ダニエル 未曾有の出来事だったわけですか。

坂江団長 ええ。

ダニエル ということは、高潮に対する訓練は、普段あまりしていなかったんですね。

新山課長 津波対策の訓練はしていますが、高潮対策の訓練は特にやっていませんでした。

ダニエル 臨機応変で対策をとるしかなかったんですね。皆さんは無事だったんですか。

金濱副団長 大丈夫でした。

ダニエル よかった、よかったなあ。でも、年末直前のことで、大変でしたよね。

新山課長 そうですね。被災地域に商店街があったので、やはり歳末商戦には響きました。

ダニエル 大変なご苦労だったと思います。が、人的被害がなくて本当によかったですね。



高潮災害時の避難誘導・救助中の様子

東日本大震災時の状況等

ダニエル 東日本大震災の時も、津波はここまで来たんでしょうか。

櫻田副団長 平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」ですが、甚大な被害をもたらした世界最大級の大地震は当市においても例外はなく、大津波警報が発令され、港には2mから3mという防波堤を超える津波が襲来しました。停泊中の船舶や岩壁側に駐車中であつた車両などを押し流し、また周辺の道路や民家を含む建物にも到達しました。消防団員130名による住民への避難誘導や広報などの迅速適切な活動もあり、幸い人的被害は発生しませんでした。損害額が47.5億円を超える甚大な被害を受けました。

ダニエル 2～3mの津波ですか。岩手などと比べれば低いですが、それでも高潮より勢いがあるので大変ですよ。

櫻田副団長 高潮とは全く違いますね。高潮は押し寄せる感じですから。

ダニエル 怖かったですよね。テレビで見て「これからこの津波がこっちにくる」と思ったでしょうから。

坂江団長 夕方の明るいうちに第一波が来ましたよね。

櫻田副団長 来ましたね、夕方の4時過ぎに。

坂江団長 私たちもあの日、午後3時前に地震が来てから津波が来る4時ぐらいまで、1時間程度あつたんですよ。そこで、余裕があると思ひ、まずお年寄りなどに避難していただき、その後、一度自宅に戻ろうとしたらすごかつたんですよ、津波。これを見たとき、一回避難して(自宅に)戻ってきて災害に遭うというのはこういうことだとなつくづく実感しました。

ダニエル 大震災の時は、訓練していたとき

のように、皆さん、高台に避難されたんですか。

坂江団長 避難場所の小学校に逃げました。

ダニエル 雪は降っていませんでしたか。

坂江団長 いや、根室は、雪はなかつたです。

ダニエル 岩手辺りはまだ雪が降っていたんですよ。でも、寒かつたでしょね。雪が積もっていたのでは？

坂江団長 いや、ちょっとしかなかつたです。根室はあまり雪が降らないですから。寒さはきついですけどね(笑)。

ダニエル そうなんですか。北海道は雪のイメージがありましたので。

坂江団長 こちらの地域は、山形より降らないと思いますよ(笑)



東日本大震災時の被害の状況

ダニエル 根室は津波がよく来る地域ですか。

坂江団長 津波は来ますよ。チリ地震の時

も来ました。

ダニエル 昭和8年頃だったかな、「岩手に大きな津波が来た」とおばあちゃんに聞きましたが、その時もこちらの方まで来たんですか。

坂江団長 そうですね。

ダニエル 私もボランティアで岩手県をまわって話をよく聞いたりして、ちょっと状況が似ているなと思いました。消防団の皆さんもそれに対応した訓練をいろいろなさっているわけですね。



対談の様子

消防団の取組について

ダニエル 現在、取り組まれている消防団の防災対策などについて教えてください。

櫻田副団長 根室市はあまり知られていませんが、今後30年以内に震度6弱以上の地震発生確率が67%と全国的にみても非常に高いんです。

ダニエル そんなに高いんですか。

櫻田副団長 実は、北海道で一番危険なんです。今は南海トラフの方が話題になっていますけれども、こちらも重大な問題になっています。発災時には、地理的事情から陸の孤島化するおそれがあり、活動の長期化が予想されます。そのため、トランシーバーや衛星携帯電話を各分団や消防分遣所等に配備しています。また、平

成25年には消防基金の助成を受けまして、救命胴衣を配備することができました。消防団の装備充実は地域住民の生命・財産を守るためにも、公務災害防止からも喫緊の課題であり計画的に整備を進めていますが、個人支給に至っていないのが現状です。また、団員の公務災害防止や意識高揚を図るため各研修についても計画を進めています。消防団は、主な役割は市の条例や規則で定められているほか、震災対応マニュアルに基づいて活動します。全国の消防団員と同じように普段は生業を持ちながらも、災害発生時には自宅もしくは職場等から出動して活動しています。その地域に住んでいる住民であるからこそ、わかることがあります。災害の場においては、その貴重な情報が生かされ、消防団員は地域と消防との重要なパイプ役を担っています。私たち消防団は「自らの地域は自らが守る」という精神に基づいて日々活動しております。

ダニエル 災害が起きた時に大切なのは、コミュニケーションのリンクだと聞きました。東日本大震災のときは、(お互いへの連絡が)全然駄目なところもありましたよね。岩手では、無線の充電ができていないために連絡が取れず、大変だったという話も聞きました。一人の団員さんの「うっかり」が、えらいことになってしまったと。コミュニケーションはやはり大切です。ところで、根室市内には、高台などで避難所がいろいろと指定されていると思いますが、逃げようと思えば30分あれば大丈夫ですか？

新山課長 津波の浸水予測区域がありまして、その区域から逃げてくださいということなので、だいたい徒歩でも避難をはじめってから30分程度あれば逃げることができると考えております。そこまでの避難は、消防団員の皆さんが誘

導をします。

ダニエル 高い山やちょっと小高い丘など
はありますか？

新山課長 そういうものがほとんどない
です。

ダニエル そこは三陸とけっこう違います
ね。三陸は海があって、平地がちょっとくらい
しかなくて、すぐ崖になっていますからね。だ
から逃げようと思えばいくらでも逃げるところ
があります。ここはちょっと(逃げる)場所を選
ばなければならないですね。

新山課長 根室は半島なので、海は両方(北
にオホーツク海、南に太平洋)にあるので、なか
なか大変です。

ダニエル なるほど。津波が数十年に1回は
来るとのことですので、その辺の対策は昔から
しっかりしている街だとは思いますが、何回も
訓練をしていて、それでも気が付くことはある
と思います。藤野さんは、何かありますか

藤野部長 女性消防団員は、ソフトの面と
いいますか、幼稚園や保育所を訪問させていた
だいて、「消防のおばさんからのお話」みたいな
感じで、「火も怖いですがけれども、煙も怖いです
よ」というお話をします。家庭にある白いシー
ツを煙に見立てて子供たちに教えるんです。最
初はゆらゆら上に上がっていくんだよ、上がっ
て行って天井にぶつかったら、どんどん横に抜
がって行って、それが空気より軽いからだんだ
ん空気が下がってくる。でもある程度、床から
30cm、40cmくらいは空気が下がらないので、そ
こを、お口を押えて背を低くしてくぐろうねっ
て、そして避難しようね、というように話しま
す。また、花火をやった時などに間違えて衣服
に火が付いてしまった場合、パタパタパタパタ

としちゃうと風で煽って火が大きくなってしま
うことがありますよね。そこで、「ストップ、ド
ロップ アンド ロール」を教えています。



女性消防団員が活動中の様子

万一衣服に着火した場合、『ストップ、ドロ
ップ アンド ロール』が有効とされています。

「ストップ」…止まれ。走ると風が起これ火の
勢いを大きくしてしまう。

「ドロップ」…倒れろ。燃えているところを地
面に押し付ける。

「ロール」…転がれ。地面に倒れ左右に転が
り、窒息消火させる。

ダニエル もう引退していますが、父が消
防士で55年間くらいずっと消防関係の仕事をし
ていましたので、子供の頃から「ストップ」「ド
ロップ」「ロール」ばかりでした(笑)。パニック
になると何もならないので、かえって誤った
行動につながるのをやめろと。「クールでいろ」
と言われましたね。

東日本大震災の時、海外からたくさんの記者
が来て避難所などを訪ねたりしたりした時に、
「日本人は本当に冷静だね。」と、みんな同じこ
とを言って感心していました。「みんなが揃って
きちっと行列をつくって並んでいる。こんな状

況なのに、なんでこんなに冷静でいられるんだろう?」と。けっこう世界的に評判になったんですね。もちろん、中にはそうでない人もいますが、周りが冷静だったらそのうちに落ち着いてくるんですね。

「ストップ、ドロップアンドロール」はとても大事なことです。実際に体に火が付いているときにはそりゃ興奮しますよ、誰だってね。いいことを子供たちに教えているんですね。

藤野部長 「おかしも」という言葉もあります。「押さない、駆けない、喋らない」、あとは危ないので絶対「戻らない」ということを、紙芝居形式で教えています。

最後に

ダニエル ところで皆さんは、どうして消防団員になりたいと思ったのですか。

金濱副団長 私は父も消防団員でして、私で2代目なんですね。で、私の息子も入っております。親子3代消防団員なんです。消防団員として地域の中で活動する父親の姿をみて、「これはいいな」と思って。父が退団になった後、自ら進んで入団しました。

櫻田副団長 私は、先輩方に勧誘されて入団しました。入団してみると、「消防団」として使命を受けると「黙ってられない」というか「人のためにやらねばならない」という気持ちが強くなって今に至っています。

藤野部長 私の場合は父が消防団員だったんです。弟がいるのですが、小さい頃から、よく父は、「父さんの後を継げ」と弟に言わないで私によく言っていて(笑)。でも、「これからは女の時代だぞ」という言葉が常に耳に残っていて、両親も弱かったし、祖母もよく救急車のお世話

になっていたこともあって「なにかお返しをしたい」ということもあって入りました。根室市の安全を考えて、平和な町であるために女性ができることをしたいなど、小さいお子様からおじいちゃんおばあちゃんまで触れ合っただけでもがんばっていきたいと思っています。

ダニエル 団長、最後に一言お願いします。

坂江団長 消防団は地域防災の要ですが、全国的にみると、団員数が年々減少しています。そんな中で、根室市の消防団においては、現在、欠員は3名となっておりますので、大きな支障がなく団の活動ができています。消防団と地域の皆さんと一緒に防災・減災に取り組んでおります。また入団勧誘につきましても、各御家庭や事業所などから、いろいろ御理解・御協力をいただいております。ぜひ消防団と地域の皆さんで一丸となって地域防災の要となって活躍していきたく思っております。

ダニエル 皆さん、ありがとうございました。

対談を終えて

先日、東京のほうで大きな地震がありました。その度に、「えっ、もしかして?」となるので、関東でも意識が高くなってきているのを感じます。東北は言うまでもないですし、今回お話を聞いて北海道も負けてないなあと思いました。講演会でよく西日本に行ってボランティアの話などをいろいろするのですが、全国各地で意識が強くなってきているのを感じます。

われわれ東北日本のみんなが皆さんの参考となるようないい例をみせていかなくはならないですね。

根室市消防団員の皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。(ダニエル・カール)